私の履歴書

岸 恵子 ㉙

家族

顧みれば、私は世界を旅して何度も危険な目に遭ってきた。果敢だったが緻密な思慮に欠けていた。失敗後、遅すぎる反省や熟慮に励んだ。

誰にも頼らずに独りで生きるスタイルは家族にもひどい犠牲を強いる。1969年12月に私の暮らしを初めて見に来た父はパリで病に倒れ、落葉の散る秋に旅立った（70年10月22日）。独りになった母を日本に、一人娘をパリに残して世界を彷徨う生き方は私自身にもストレスを課した。

冒険好きな娘とは世界の辺境の地をよく旅した。国連人口基金親善大使でベトナムに行った時、娘はカメラマンとして私に奉仕してくれた。

「ママンには見えないものが私には見えた。国連の公式訪問でママンは政府要人に囲まれてベトナムの表の顔を見てきた。私は歩き回ってベトナムの裏の裏を見たわ」

枯れ葉剤の影響を受けたり、地雷で手足など体を吹き飛ばされたりしたベトナムの若者たち。酷い過去を糧として、頭を上げて生きる人たちの強さに私と娘は感動した。

看取れなかった母の最期

独りで生きる姿勢 犠牲強いる

母はこの頃、くも膜下出血で何度も手術を受け、ひたすら私の里帰りを待つ生活が続いた。13年間の闘病生活を経た99年1月24日。90歳の母は私の帰りを2日後に控え、元気に娘を迎えたいと張り切ってリハビリをやり過ぎたために力尽きてしまった。

母が最期を迎えたその時、私は国連のミッションでアフリカ奥地の水も電気も通信手段もない場所で孤児を抱いていた。母の最期を看取れなかったうえ、母が息を引き取ったこともパリへ戻るまで知らなかった。何たる親不孝。

娘が結婚して初孫が生まれたのが2000年。あまりの可愛さに私は〝パパ馬鹿〟に明け暮れた。娘夫婦が友人を招いて食事しているのに、昼寝中の孫の泣き声が聞こえると孫の部屋へすぐに駆け上がる。孫を抱きしめて階段を降りた私に娘の悲鳴が飛んだ。

「ママン、泣いてすぐ抱き上げたら悪い癖がつくわ」

しがみつく孫の腕を剥がして娘の胸に返しながら（祖母という立場になった私にも去るべき時がある）と生涯3度目の決別を覚悟した。

43年間のパリ暮らしに幕を閉じ、横浜の実家へ戻ったのも2000年。68歳になろうとしていた私を市川崑監督が「かあちゃん」という映画で迎え入れてくれた。

この作品で私は日本アカデミー賞最優秀主演女優賞をいただき、市川監督はモントリオール世界映画祭で特別功労賞を受賞なさった。

この頃、私は子供時代からの夢だった物語を紡ぐことに夢中になった。速足で巡りゆく歳月や移ろう人の心。昔見知った顔はみんな容赦なく年を重ねていた。私は高齢の男と女の物語「わりなき恋」を書いてベストセラーになり、舞台で独り語りを演じた。

慣れない舞台で恐怖と夢に震え、体も心も燃えながら演じた。幸い好評で3年目の公演を娘夫婦が2人の孫を連れて見に来てくれた。つぶらな瞳で私に抱きついた初孫はカッコいい大学生になっていた。

両親を連れてパリへ（69年末、羽田）

「言葉が分からないのに凄く感動した。この舞台、オーディションに受かったの？」

孫たちの言葉にあぜんとした。私のたった一つの家族は、私がどんな女優であるのかも知らないのだった。

孤独という風景が心の底に広がり、瞳を潤ませた娘がその私を抱きしめてくれた。

（女優）

掲載日 2020年5月30日 日本経済新聞 朝刊 40ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。